

2023年3月期決算説明



2023年5月23日

片倉コープアグリ株式会社

会社概要	3~4
------	-----

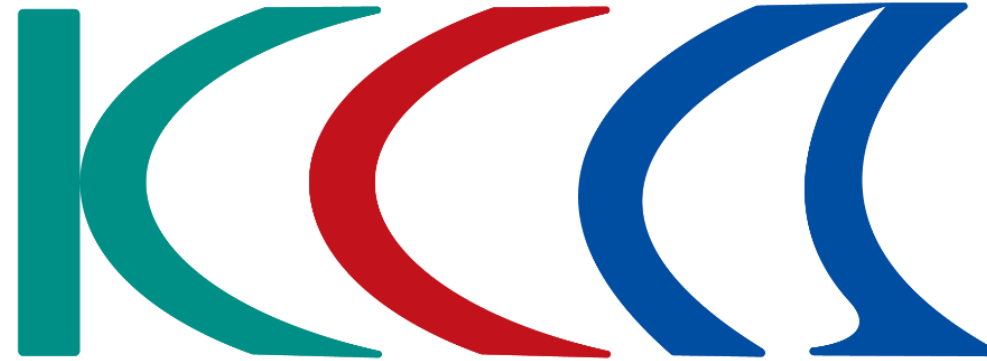
2023年3月期 連結決算業績

2023年3月期 連結業績サマリー	6
連結貸借対照表増減	7
主要経営指標	8
連結キャッシュ・フロー	9
連結業績 セグメント	10~14
株式の配当金推移	15



片倉コープアグリ株式会社

設立	大正9年(1920年)3月14日
本社所在地	東京都千代田区九段北1-8-10
資本金	4,214百万円
従業員数	639名(単体)
	846名(連結)
発行済株式の総数	10,161千株
株主数	7,122名(2023.3.31現在)
上場証券取引所	東京証券取引所スタンダード市場



”たわわに実った農作物のしなり” のイメージをモチーフしてデザインしました。
確かな技術で未来を創造していく企業をイメージしています。

■ : 作物や農業 ■ : 情熱、力強さ、太陽 ■ : 地球、水、空、大自然

基本理念
行動規範

企業活動を通して社会に貢献する

- 創造と挑戦
- 安全と安心
- 公明正大
- 明朗闊達

コーポレートメッセージ 稔り豊かな未来に貢献したい

2023年3月期



連結決算業績

2023年3月期 連結業績サマリー

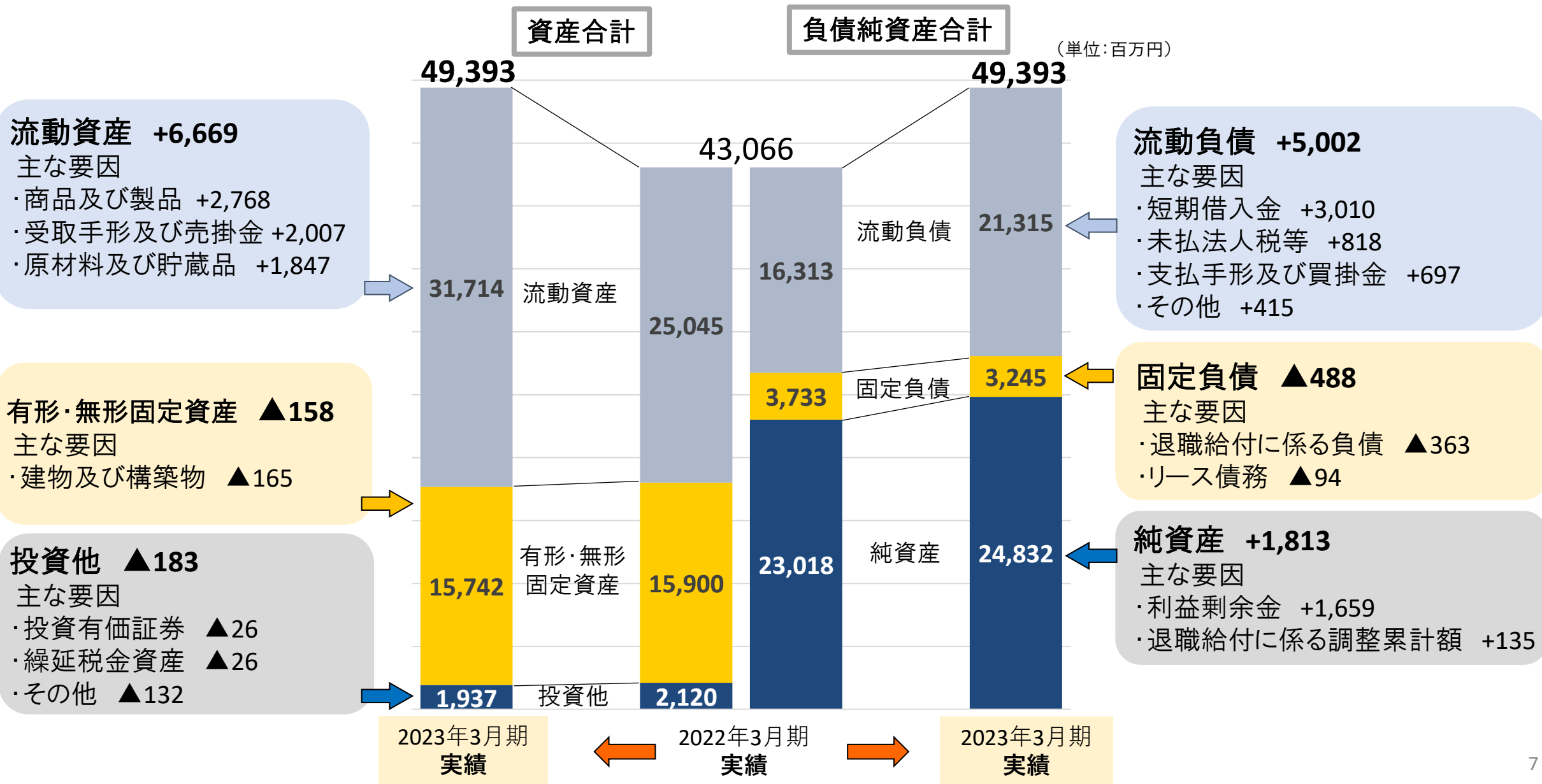
(単位:百万円)

連結	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	
			対前期
売上高	38,960	51,031	+12,070
営業利益	1,123	3,557	+2,434
経常利益	1,207	3,525	+2,317
当期純利益	1,022	2,172	+1,149

2023年3月期 利益

主力である肥料事業において、原料価格高騰に伴う6月及び11月の二度に亘る肥料価格値上がりとなったこと、また化学品事業において工業用リン酸販売価格の見直し及び飼料の販売が好調に推移したことにより、売上高は51,031百万円(前年同期比31.0%増)、営業利益3,557百万円(前年同期比216.7%増)、経常利益3,525百万円(前年同期比191.9%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は2,172百万円(前年同期比112.4%増)となりました。

連結貸借対照表増減



主要経営指標

	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	対前期
資本金(百万円)	4,214	4,214	-
総資産(百万円)	43,066	49,393	+6,327
純資産(百万円)	23,018	24,832	+1,813
有利子負債(百万円)	6,745	9,755	+3,010
ネット有利子負債(百万円)	4,750	7,856	+3,106
1株当たり純資産(円)	2,565.65	2,765.88	+200.23
1株当たり配当額(円)	57.00	121.00	+64
自己資本比率(%)	53.3	50.2	▲3.1
自己資本当期純利益率(%) (ROE)	4.5	9.1	+4.6
総資産経常利益率(%) (ROA)	2.9	7.6	+4.7
配当性向(%)	49.9	49.9	-

連結キャッシュ・フロー

(単位:百万円)

	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績
営業キャッシュフロー	341	▲1,209
税金等調整前当期純利益	1,149	3,158
減価償却費	1,319	1,255
売上債権の増減額(増加:▲)	▲1,117	▲2,008
たな卸資産の増減額(増加:▲)	▲2,317	▲4,805
仕入債務の増減額(減少:▲)	1,900	697
未払消費税等の増減額(減少:▲)	▲303	▲277
その他	▲290	771
投資キャッシュフロー	▲529	▲1,242
財務キャッシュフロー	▲624	2,354
現金及び現金同等物の期末残高	1,941	1,844
現金及び現金同等物の増減額	▲813	▲96

主な要因

- ・有形固定資産の取得による支出 ▲891
- ・有形固定資産の除却による支出 ▲313

主な要因

- ・短期借入金の純増減額 3,010
- ・配当金の支払額 ▲511
- ・リース債務の返済による支出 ▲142

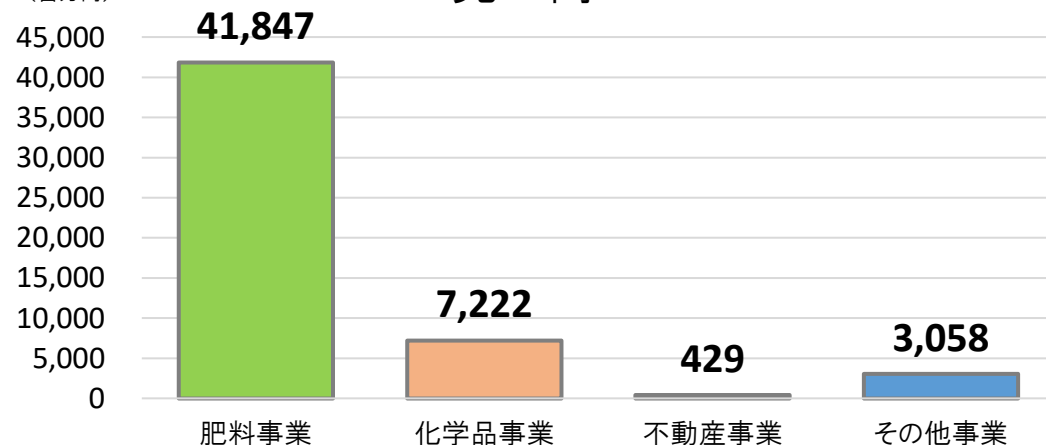
連結業績 セグメント

(単位:百万円)

	2022年3月期 実績		2023年3月期 実績			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	前年対比	
					売上高	営業利益
肥料事業	30,828	1,274	41,847	3,820	+11,018	+2,546
化学品事業	6,045	624	7,222	600	+1,177	▲24
不動産事業	399	143	429	173	+29	+29
その他事業	3,110	51	3,058	73	▲52	+22
合計	40,383	2,094	52,557	4,667	+12,173	+2,573

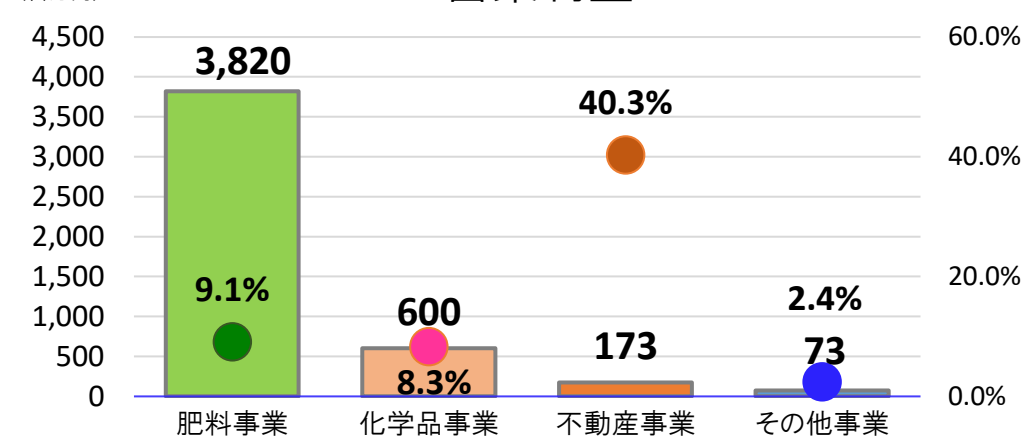
(百万円)

売上高

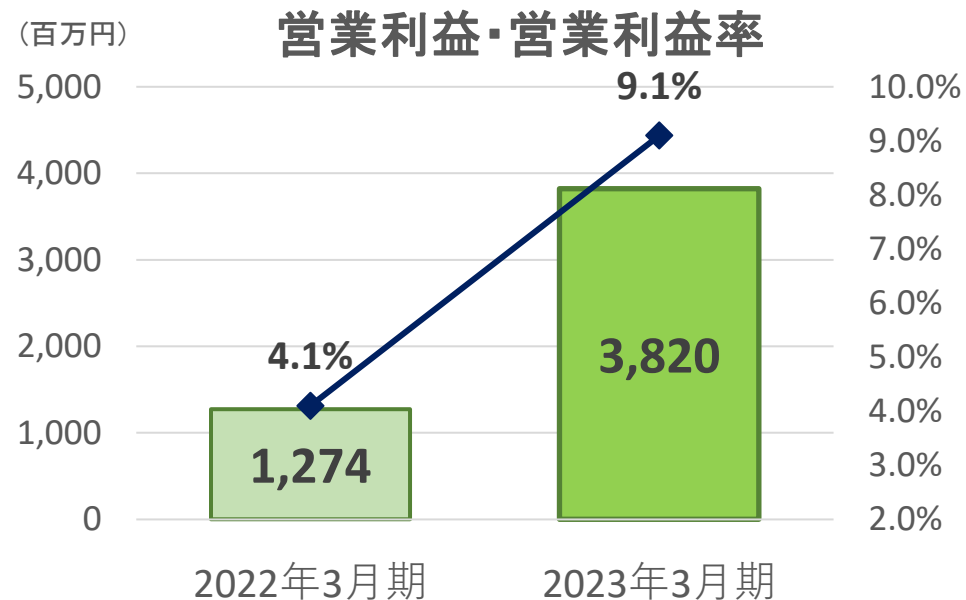
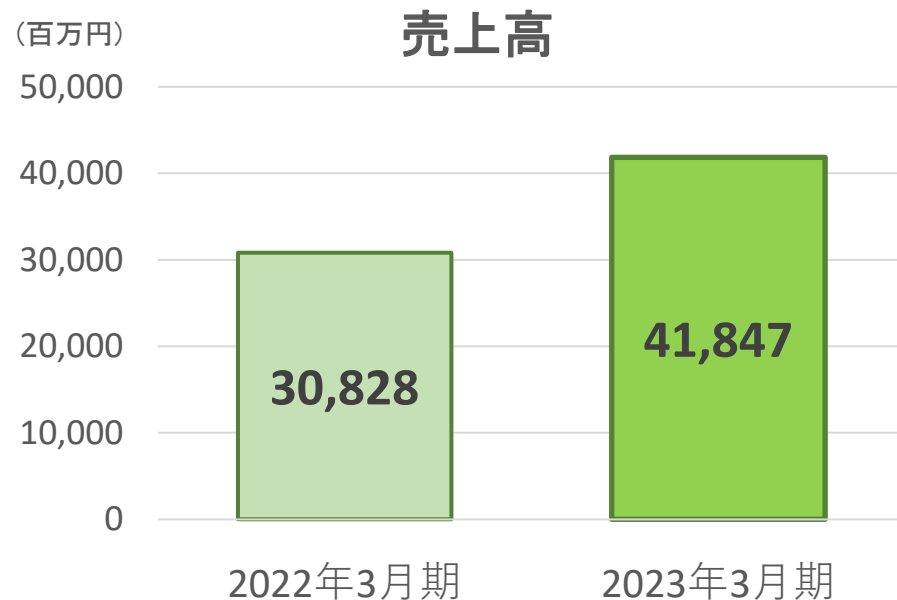


(百万円)

営業利益



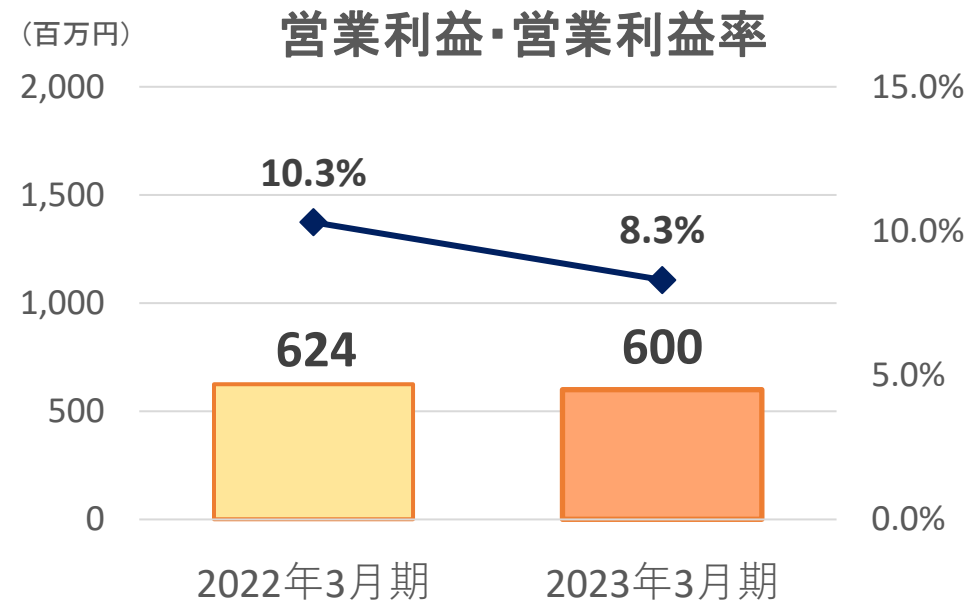
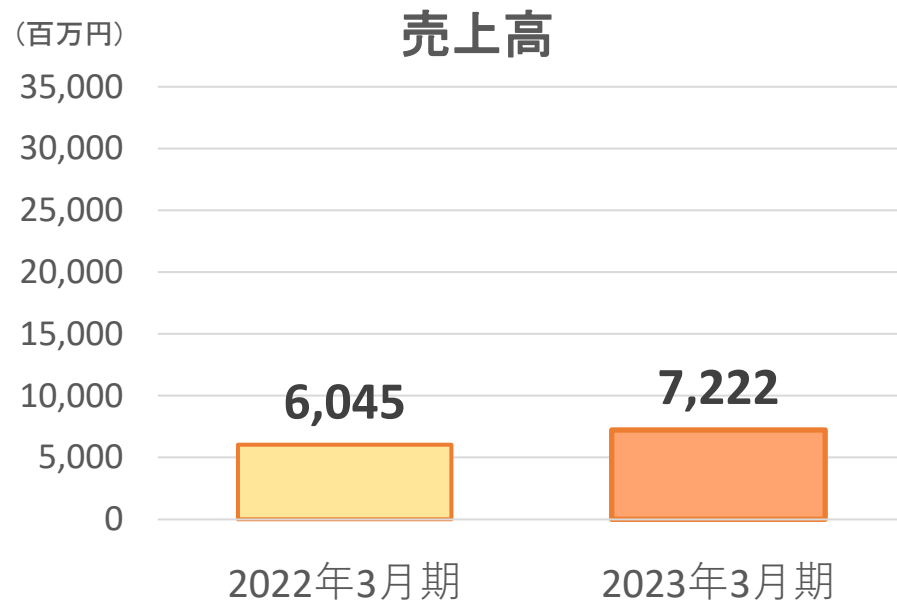
肥料事業



◆当社の取組み

原料価格高騰に伴う6月及び11月の二度に亘る肥料価格値上がりにより、売上高41,847百万円(前年同期比35.7%増)、利益面においては肥料価格値上げ前に調達した原料に起因する売買差益等により、セグメント利益は3,820百万円(前年同期比199.8%増)となりました。

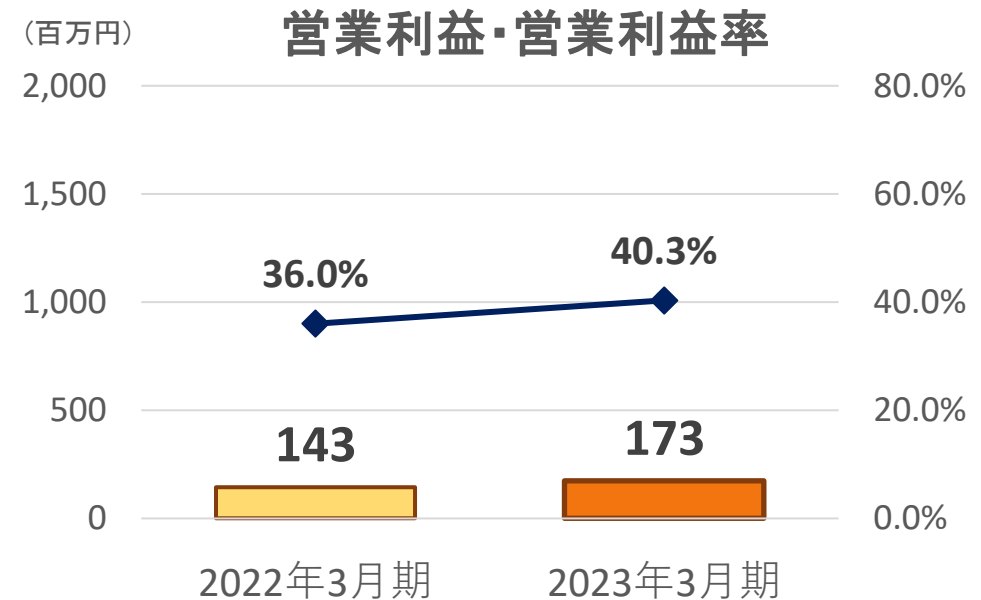
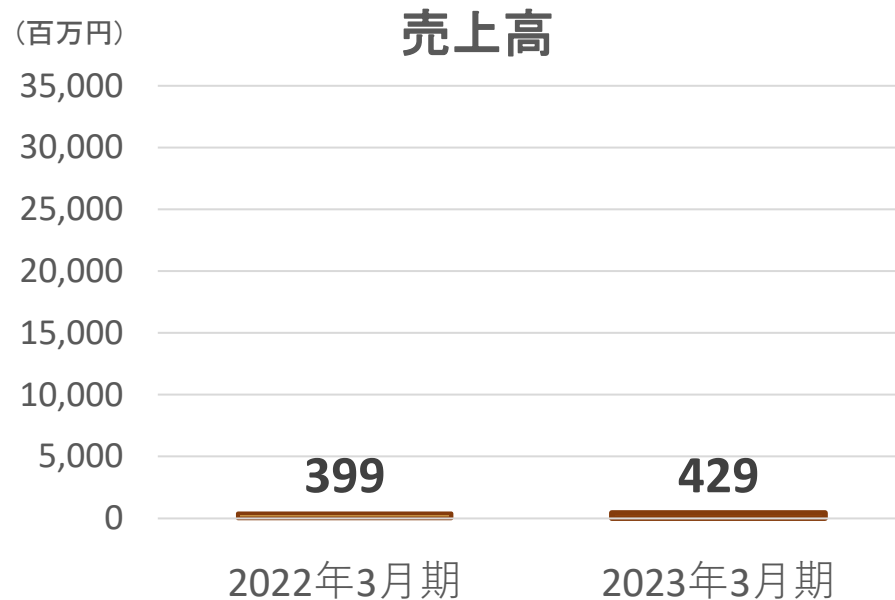
化学品事業



◆当社の取組み

原料価格高騰による工業用リン酸販売価格の見直し及び飼料の販売が好調に推移したことにより、売上高7,222百万円(前年同期比19.5%増)、利益面においては化粧品原料及び無機素材の販売数量が減少したことにより、セグメント利益は600百万円(前年同期比3.9%減)となりました。

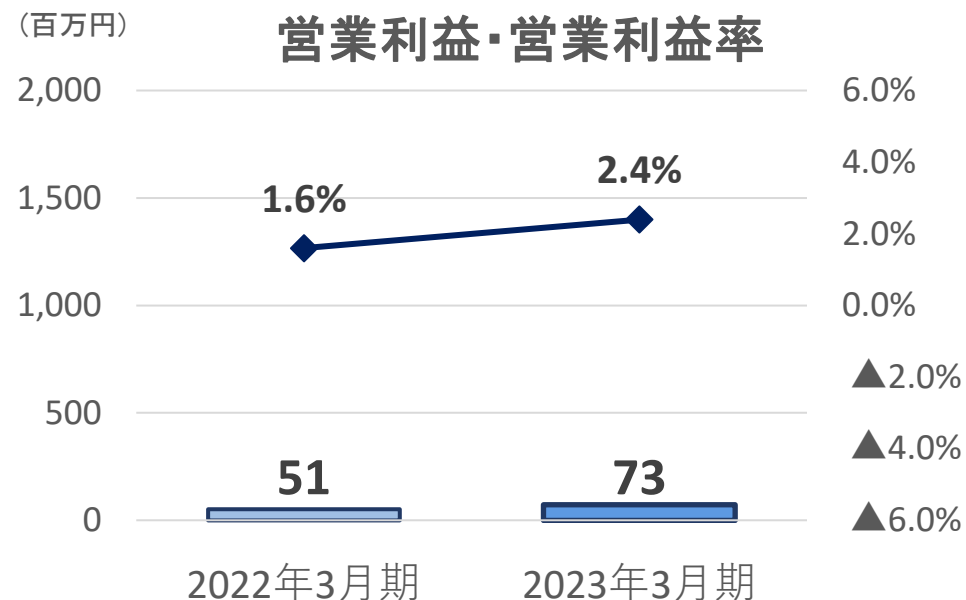
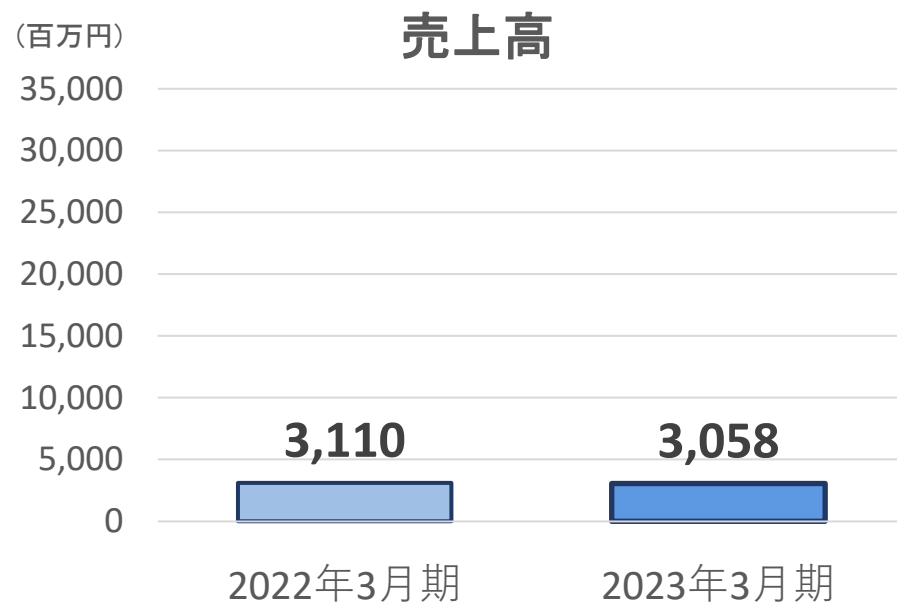
不動産事業



◆当社の取組み

渋谷駅前に有する物件のテナント変更等により賃料収入が増加し、売上高429百万円(前年同期比7.4%増)、セグメント利益は173百万円(前年同期比20.2%増)となりました。

その他の事業



◆当社の取組み

連結子会社において食品農産物の販売が減少したことにより、売上高3,058百万円（前年同期比1.7%減）、利益面においては設備工事等の受注が増加したことにより、セグメント利益は73百万円（前年同期比42.9%増）となりました。

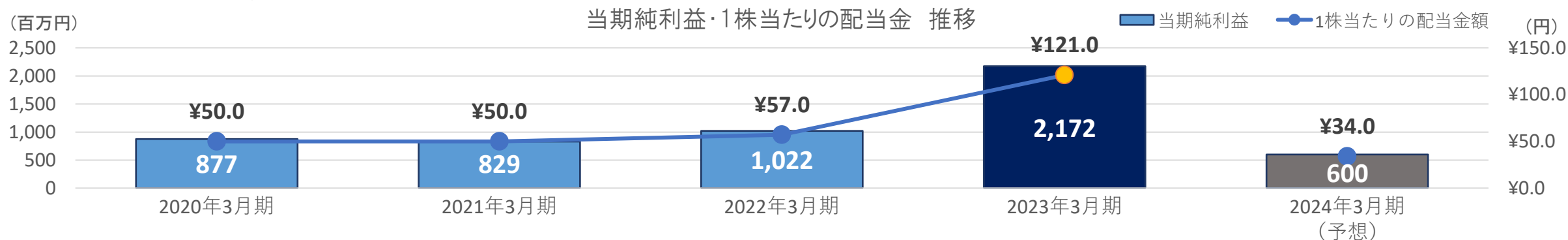
配当金の推移

当社グループは、持続的な成長と企業価値の向上を図るため、資本効率の向上と財務健全性とのバランスを確保することを資本政策の基本方針といたします。

中期経営計画では不動産事業の渋谷駅前には有する賃貸物件、及び海外事業の中国の合弁会社での事業展開の収益を織り込まないため、株主資本当期純利益率(ROE)の具体的な数値目標は立てないものの、資本効率向上の重要な指標ととらえ、新規事業分野への投資、付加価値の高い製品の開発、効率的な生産・販売体制の構築を追求し、連結当期純利益の増大を図り、株主資本当期純利益率(ROE)の向上を図ってまいります。

また、株主に対する利益還元を経営の重要政策と位置づけ、安定的かつ継続的に業績に見合った成果の配当を行うことを基本とし、引き続き配当性向50%を目標といたします。

PBR改善策につきましては十分な現状分析や検討を行うことが肝要であるため、次期中期経営計画を策定する際、PBR向上に向けた中長期的な成長戦略も検討して参ります。



	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期 (予想)
1株当たりの配当金額(円)	¥50.00	¥50.00	¥57.00	¥121.0	¥34.00
配当性向(%)	55.4%	54.7%	49.9%	49.9%	50.8%
(参考) PBR	0.47倍	0.51倍	0.50倍	0.61倍	—



稔り豊かな未来に貢献したい
<https://www.katakuraco-op.com>

本資料に記載されている、当社又は当社グループに関する業績見通し等、将来に関する記述については現時点で、入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因やリスクによって異なる結果となる可能性があります。